

後記

霜野壽亮先生は、本年三月をもって本塾法学部をご定年となり、ご退職される。学校の規則に従ったことなので仕方ない。もう少し後進の指導をしてもらいたいところであり、残念である。先生は、一九六九（昭和四四）年四月に法学部助手に就任されて以来、四〇年、法学部政治学科において社会学理論、政治権力論を専攻の中心において研究を続けられるとともに、社会学（日吉）、政治権力論（三田）を長年にわたり担当されてきた。二〇〇九年一月には四〇年勤続表彰を受けられた。研究会での指導も積み重ねられ、先生のご薫陶を受けた若者が数多く育って社会で活躍されている。

霜野先生の周囲には、研究面・教育指導面においていろいろと指導を賜った同僚・仲間も多い。そこで、私と有末賢先生が発起人兼編集人となって、先生の退職記念号をまとめることになり、法学部政治学科や社会学研究科社会学専攻だけでなく、他大学に在籍している方々を含めて、広くお声をかけさせていただいた。結果として、一六本の論文をここにまとめ、先生の学恩に報いることができたのではないかと、ほっとしているところである。お忙しいところご執筆頂いた先生方に御礼申し上げるとともに、有末先生には大いにお骨折りいただき感謝する次第である。

霜野先生は、当初より、社会学理論の研究を志されると

ともに、政治学にとつても重要な概念である「権力」を米国の社会学者T・パソンズの構造・機能主義の観点から長年研究してこられた。先生の業績は権力論関係のものが初期には多かったが、後には、機能・構造主義社会学の幅広い展開に沿った形で、先生の研究も深化を遂げてきた。私自身は研究分野も異なり（社会変動論、国際社会学、現代オーストラリア論、霜野先生との研究の接点は少なかったが、先生には、十時嚴周先生同門の先輩として常に指導を頂く立場であった。じっくりと一つの研究対象を考察され、時には石橋を叩いても渡らないほどの慎重な研究姿勢とその真摯な態度に大いに影響を受けた。といっても、先生のようにはなれなかった。オーストラリア社会の目先の変化を追いかけるのに忙しく、熟慮の上に論文を書く姿勢は身につけられず、この論文集の執筆と編集作業中には大いに反省した。

先生は四〇年勤続を果たされたが、その間には、様々なご病気を経験されており、我々も大いに心配した。せっかくここまで体調をお気遣いになりながらご定年をお迎えになられたので、今後とも、体調に気をつけられながら研究を続け、我々を大いに刺激していただきたい。

二〇〇九年一二月

法学部教授 関根政美